



**お元気ですか！**  
**志村 たかよし です**

**第825号** 2017年2月5日

**日本共産党中央区議団**

中央区 築地 1-1-1  
電話 3546-5563  
FAX 3546-9570

## 都が試算

# 豊洲移転 赤字年98億円



市場問題PT第5回会合の参加者たち＝25日  
「しんぶん赤旗」より

深刻な土壌汚染の状況が、次々と明らかにされる中、今度は、「お金」にかかわる重大な問題が浮上してきました。

25日に開かれた、築地市場の豊洲新市場への移転について検証する都の市場問題プロジェクトチーム（PT）の第5回会合で、東京都は、豊洲新市場を開場した場合、年間約98億円の赤字となる試算を明らかにしました。

都の市場会計収支試算によると、業者から受け取る施設使用料などの約68億円の収入に対し、維持管

理費（76億5814万円）や減価償却費、人件費などを合わせた総経費は約166億円となり、經常損益は年間約98億円の赤字となるということです。

### 市場問題PTで懸念続出

都の試算について、市場問題プロジェクトチームの小島座長は「豊洲の赤字が他の10の市場の運営・維持管理を圧迫する構造となるのではないか」と指摘しました。

菊森淳文委員は「食の安全・安心が確保されない場合、経営が厳しくなるのは想像に難くない」と述べ、小島座長は「（土壌汚染対策で）地下ピットの追加工事が必要となれば、お金はどんどん消えていく」と赤字の拡大についても懸念を示しました。

都が築地市場跡地の売却益収入を4386億円と見積もった点に関して、森山高至委員が疑問を呈し、都は環状2号線用地部分の有償所管替単価に基づく試算だと回答しました。

### 事業者新たな負担が

事業者の運転費用について、都は東卸（東京魚市場卸協同組合）が23日に発行した新市場ニュースを示し、空調費などの新たな負担が生じると説明しました。

会合終了後、小島座長は「開場の赤字は想定されていたが、初めて数字が明らかになった」と述べ、経営計画などの数字がないままに事業が進められてきたことが問題だとの考えを示しました。

豊洲新市場の維持管理費は、築地の約五倍になるといいますから、豊洲での営業は不安になります。

### 都が試算した年間維持管理費

	築地市場	豊洲市場
委託費	5億5677万円 (152万円)	34億4953万円 (945万円)
設備	1億8051万円 (49万円)	10億3668万円 (284万円)
	3億7625万円 (103万円)	24億1285万円 (661万円)
光熱水費	10億1475万円 (278万円)	42億860万円 (1153万円)
電気水道	10億1475万円 (278万円)	34億1705万円 (936万円)
地域冷暖房	なし	7億9154万円 (216万円)
合計	15億7152万円 (430万円)	76億5814万円 (2098万円)

# 東卸理事長に移転慎重派！

## 水産仲卸の

## 「意思」示す

1月31日、水産仲卸で組織する東卸（東京魚市場卸協同組合）の理事長選が行われ、豊洲移転問題で慎重派とされる早山豊氏が、選出されました。

理事長選は、早山氏と現職で移転推進派の伊藤淳一氏が立候補。29人の理事による互選で早山氏が過半数を獲得し、理事長に就任しました。理事長の任期は、2年間で。

29人の新しい理事は、30日の臨時総代会で決まっています。

### 築地で働くことが大前提

新理事長になった早山氏は、記者団に「築地で働く仲卸であることを大前提に、これからの方向性を話し合っていく」と語りました。

移転に対する今後の対応方針は、近く記者会見して明らかにするとしています。

### 移転計画に大きな影響

豊洲新市場予定地の土壌汚染・地下水汚染の問題や使い勝手の悪さ、維持管理費の問題など、問題山積の中で、554業者からなる築地市場で最大の組合のトップが移転慎重派になったことは、豊洲移転計画に大きな影響を与えることは必至です。



左から吉良良子参院議員、私（志村）、笠井亮衆院議員。13年9月

## 9回の調査費65億円

### ゼネコンとは特命随意契約

### 豊洲地下水

東京都は31日、豊洲新市場予定地（江東区）で実施した地下水

モニタリング調査の委託契約に関する資料を、都議会豊洲市場移転特別委員会に提出しました。過去9回の調査費用は合計65億3270万円（一部工事費を含む）のほり、30日から開始した再調査（4機関に委託）の費用は1076万円としています。

工事費を含めた費用は、5街区（青果）は鹿島JVに19億1417万円、6街区（水産仲卸）は清水建設JVに23億8445万円、7街区（水産卸）は大成JVに21億6140万円で発注していました。9回目は湘南分析センターの347万円でした。

資料によると、1、3回の調査は日水コンに採水、日立プラントサービスに分析を依頼し、計6919万円を支出。4、8回目は地下水管理施設整備工事を受注した大手ゼネコンなどの建設共同企業体（JV）に採水と分析を依頼。地下水管理システムや揚水井戸の本紙に説明しました。

指名競争入札による契約は、1回目の分析と9回目の採水・分析だけで、大半は都中央卸売市場が事業者を指定する特命随意契約でした。同市場は随意契約にした理由について「工事施工中に採水を行うことから工事の受注者と契約した」と、

「意見」「要望など」お気軽に「連絡ください」(03-6360-0000)

しんぶん赤旗2／1付